

Newsletter

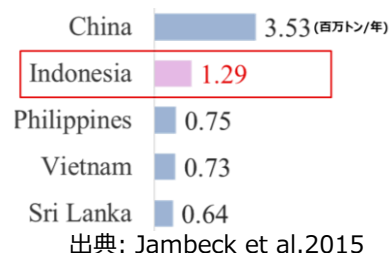
インドネシア味の素社、伝統市場にて官民連携によるプラスチックごみ回収&リサイクルの取り組みスタート

インドネシア味の素社は、深刻な社会問題である海洋プラスチック汚染の解決に貢献するため、インドネシア第2の都市のスラバヤ市とスタートアップ企業のRekosistem社と協力し、スラバヤ市内の伝統市場にてプラスチックごみの回収とリサイクルの取り組みを2022年12月より開始しました。

深刻な海洋プラスチック汚染と政府の規制強化

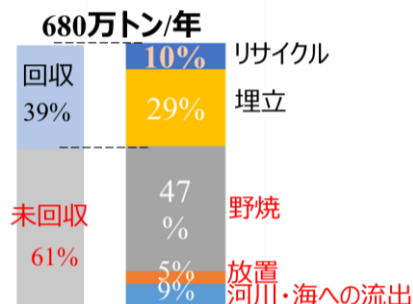
インドネシアは世界第2位の海洋プラスチックごみ排出国であり、国内において深刻な社会問題となっています。インドネシア政府は生産者に対し、2029年までに30%の包装ごみ削減を目標に、その計画書と年次報告書の提出を義務付けています。また本法律は、生活者が使用した後の包装ごみの回収とリサイクルに取り組むことも求めています。

<海洋プラスチックごみ排出量トップ5>



多層ラミネート包材等の低価値ごみの回収とリサイクルの仕組みは発展途上

<プラスチックごみ管理の現状>



出典: NPAP World Economic forum 2020

インドネシアでは年間680万トンのプラスチックごみが発生しており、回収されているのは39%で残り61%は野焼きや環境への流出となっています。また、回収されたごみも未分別のまま、その多くがそのまま埋め立てられています。

ペットボトルやアルミ缶等の高値で取引されるごみは、ごみ銀行（有価ごみ買取所）、スタートアップ、NGOによりその回収の仕組みが徐々に確立されつつありますが、食品包材等に使用される多層ラミネート包材等の価値の低いごみの回収の仕組みの構築はまだ発展途上です。

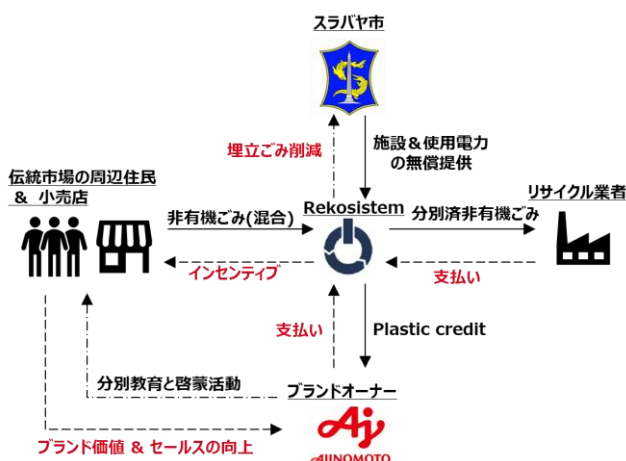
生活者、地方政府、スタートアップ企業、ブランドオーナー、それぞれにメリットのある仕組み作りに挑戦

このたび、インドネシア味の素社がRekosistem社の運営するごみ回収ステーション（ウエストステーション）をスラバヤ市の伝統市場に設置し、多層ラミネート包材を含む非有機ごみの有償買取を開始します。

インドネシア味の素社は小売店及び近隣住民に対し分別教育、回収の啓発活動を行うことで回収量増を目指し、国家問題である海洋汚染の解決に取り組んでいきます。

また、スラバヤ市はステーションの設置場所及び使用電力の無償提供を行います。市は埋立ごみ削減を見込めることから、ステークホルダーそれぞれにメリットのある仕組みをインドネシア味の素社が考案し実現しました。

<本取り組みにおけるステークホルダーの相関図>



【回収&リサイクルの取り組みの特徴】

①Rekosistem社（2018年創業）

・Rekosistem社はごみ管理のプラットフォームを提供しており、非有機物の混合ごみをまとめて買取するサービスを提供しています。その為、家庭でのごみの分別が2種類のみに限られることで、分別文化が定着していないインドネシアにおいても受け入れられやすい仕組みになっています。

・ウエストステーションに運び込まれた非有機ごみは分別場で内容物の検証及び分別が行われ、800Rp/kgのポイントがユーザーに配布されます。そのポイントはインドネシアで幅広く使われている電子マネーに等価交換することができます。同時に素材別のごみ量、CO2削減量がユーザーに提供されます。



②「ごみの分別」を普及し“地球の健康”に貢献

インドネシア味の素社では健康寿命の延伸、環境負荷半減を実現するため、従業員一人ひとりをHealth providerと称して、“人の健康”、“地球の健康”に貢献する活動を行っています。

インドネシアではごみの発生源での分別がされておらず、生ごみ等の有機ごみが本来リサイクル可能な非有機ごみを汚染することで、そのリサイクルが難しくなっています。その為、発生源である家庭や店舗における分別がサーキュラーエコノミーを実現する第一歩として重要であると考えています。インドネシア味の素社は、Health providerとして「ごみの分別」を普及していきます。

③他のブランドオーナーも参画できる仕組み

スラバヤ市は人口約300万人のインドネシア第2の都市です。今回は試験的にスラバヤ市が管理する1つの伝統市場にて回収を開始しますが、今後他の場所に展開できるように、味の素ブランド以外のブランドオーナーも協賛できるような仕組みにしています。この新しいエコシステムが社会インフラとしてインドネシア全土に広がることで、海洋汚染が改善することを期待しています。



佐武 俊彦

(Toshihiko Satake)
PT Ajinomoto Indonesia
Food technology division

担当者のコメント

プラスチックは文明にとって有用な素材です。プラスチックそのものには問題があるのではなく、ごみのマネジメントの課題であると考えています。プラスチックごみで汚染されている海、河川が少しでも本来の姿へ回復できるよう、他のブランドオーナーとも協力しながらこの社会問題の解決に取り組んでいきます。

味の素グループのプラスチック廃棄物削減の取り組みと進捗

味の素グループは、有効利用されずに環境に流出するプラスチックを2030年度までにゼロにすることを目標に掲げ、グループ全体で戦略的に取り組んでいます。

2030年度のゴール

- プラスチックの使用は、製品の安全性や品質に必要な 最小限の用途と量に厳選（リデュース）
- 使用するプラスチックは、全てモノマテリアルまたはその他のリサイクルに適した素材に転換（リサイクル）
- 味の素グループの製品を生産、販売するそれぞれの国・地域における回収、分別、リサイクルの社会実装に向けた取り組みを支援し貢献

プラスチック廃棄物ゼロ化に向けては、モノマテリアル包装資材への転換のための技術開発を進めながら2025年度までにリデュースを完了し、2030年度までにリサイクルにに適した素材への転換を完了させる計画です。

報道関係者からの取材ご依頼等お問い合わせ先：

Pr media(https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/contact_us/)